

NPO 法人アレルギーを考える母の会主催 **オンライン** 研修会

(後援：文部科学省、厚生労働省)

コロナ禍でも学校・保育所などの食物アレルギー 対応を充実させるために

募集要項 (令和3年度)

本事業は (公財) ニッポンハム食の未来財団の助成を受けて実施します

【趣旨】「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」(日本学校保健会) や「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省) が相次いで改訂されるなど、アレルギーの子どもたちの支援にかかわる施策が大きく前に進んでいます。また児童福祉施設や「子ども食堂・地域食堂」など、多くの子どもの居場所でも対応を求められるケースが増えています。本研修会では、ガイドラインや手引きの作成に携わった専門医などを講師に迎え、小児アレルギーの最新知識と適切な対応、ガイドライン改訂のポイント、施設で求められるアレルギー対応などについて実践的に学びます。新型コロナ感染症の影響で研修に参加する機会が減っています。ご活用ください。

* 本研修会はオンライン会議ツール (Zoom) を 使用して行います

(インターネットを利用できる PC、スマートフォンで参加できます)



【第1回】令和3年12月7日(火) 13:30~16:30 質疑あり

○内容：食物アレルギーの給食対応の実際 (主に栄養士、調理師、調理員、行政職員向け)

○講師：管理栄養士・小児アレルギーエドゥケーター 長谷川実穂さん

【第2回】令和4年1月7日(金) 13:30~16:30 質疑あり

○内容：学校・保育所、児童福祉施設のアレルギー対応 (主に教職員、保育士、救急救命士など向け)

○講師：昭和大学医学部小児科学講座教授 今井孝成先生

【第3回】令和4年2月4日(金) 13:30~16:30 質疑あり

○内容：学校・保育所、児童福祉施設のアレルギー対応 (主に教職員、保育士、救急救命士など向け)

○講師：昭和大学医学部小児科学講座教授 今井孝成先生

【第4回】令和4年2月15日(火) 13:30~16:30 質疑あり

○内容：食物アレルギーの給食対応の実際 (主に栄養士、調理師、調理員、行政職員向け)

○講師：管理栄養士・小児アレルギーエドゥケーター 長谷川実穂さん

【定員】各回 500 人

【参加費】無料

(裏面に申し込み方法と講師の略歴)

(申し込み)

【申込方法】 下記 URL または右の QR コードからアクセスし、送信して下さい

○申込 URL <https://forms.gle/ysWkFVpBir2Hvruo6>

* 上記からのお申込みが難しい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください



【申込期間】 令和3年9月1日(水)から、各回開催日の10日前まで

- * 締め切り日の前に定員に達した場合は、その段階で受付を締め切ります
- * 応募多数により参加をお断りする際は、アレルギーを考える母の会よりご連絡いたします
- * 開催1週間前をめどに当日の参加 URL と講演資料をダウンロードできるサイトの URL をメールで送信します
- * アクセスできる数に限りがあるため、1参加 URL につき使用できる端末は1台に限ります
- * 研修内容の録音・録画・画面撮影、講演資料の2次使用、参加 URL の他人への譲渡はできません。適切な管理をお願いいたします。いただいたメールアドレスなど個人情報は適切に管理し本研修会でのみ利用いたします

【問い合わせ】 「母の会」HP (<http://hahanokai.org/>) 「お問い合わせはこちら」へ
または携帯電話 090-3220-4425 (代表・園部まり子)

【講師の紹介】

○**今井孝成先生**：昭和大学医学部小児科学講座教授、日本アレルギー学会指導医。東京慈恵会医科大学卒、アレルギー疾患の国の中心拠点施設、国立病院機構相模原病院で小児科全般ならびに小児のアレルギー疾患について広く診療に携わる。同病院小児科医長などを経て現職。「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の作成と改訂で中心的な役割を果たした。



今井孝成先生

○**長谷川実穂さん**：管理栄養士、小児アレルギーエドゥケーター、昭和大学病院小児科研究補助員。静岡県立大学食品栄養科学部栄養学科卒、国立病院機構相模原病院臨床研究センター研究員などを経て現職。「子供が喜ぶ食物アレルギーレシピ」(成美堂出版) など多数の栄養監修、「学校給食における食物アレルギー対応指針」(文部科学省) 作成にも携わった。保育所や子ども食堂などに出向いて研修を行うなど、地域でも幅広く活動している。



長谷川実穂さん

(NPO 法人アレルギーを考える母の会)

平成 11 年に横浜市で発足。アレルギー患者を適切な医療(標準治療)につなぎ健康回復を図る相談活動(年間約 400 人)を中心に、患者も賢く適切な医療を知る学習懇談会・講演会活動、相談から浮かぶ社会的な課題の解決を国や自治体、関連学会などに建設的に働きかける活動、また相次ぐ災害の被災地でも活動を継続している。厚生労働省や文部科学省などの連携の中で、文部科学省「学校給食における食物アレルギー対応に関する調査研究協力者会議」(平成 25 年 5 月)、厚生労働省「アレルギー疾患対策推進協議会」(平成 27 年 12 月)などの委員も務める。第 9 回「かながわ子ども・子育て支援大賞」(主催：神奈川県、平成 27 年度)、第 69 回「保健文化賞」(主催：第一生命保険、後援：厚生労働省、朝日新聞厚生文化事業団、NHK 厚生文化事業団、平成 29 年度)などを受賞している。